

日本の研究者による研究データマネジメント（RDM）の実践状況： 「研究データ公開と論文のオープンアクセスに関する実態調査」から

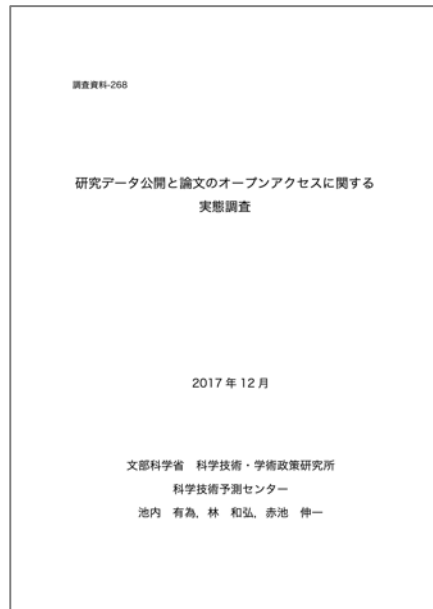
池内 有為

文教大学文学部英米語英米文学科 専任講師
文部科学省科学技術・学術政策研究所 客員研究官

iD 0000-0002-5680-1881 <https://researchmap.jp/oui/>

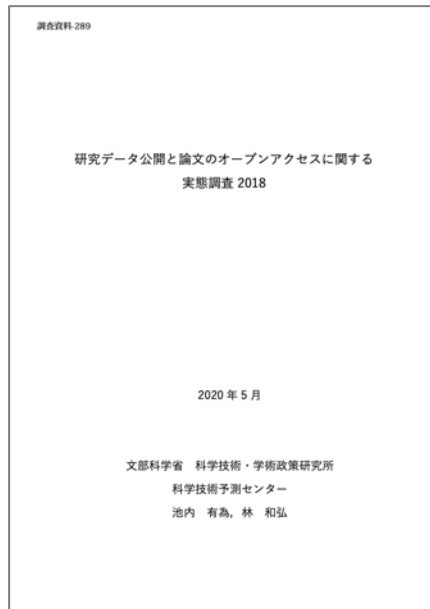


「研究データ公開と論文のオープンアクセスに関する実態調査」 2016年・2018年・まとめ



2016

<https://doi.org/10.15108/rm268>
<https://doi.org/10.15108/rm289>



2018



まとめ

<https://oui-oui.jp/2020/09/os/>

CONTENTS

- I. 調査の概要
- II. 日本の研究者によるRDMの実践状況
- III. 日本の研究者によるRDMの認識
- IV. まとめ

I. 調査の概要

1. 調査対象
2. 調査方法と調査期間
3. 回答者の概要

1. 調査対象

■ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）科学技術専門家ネットワーク

- 紹介によって選出される産学官の研究者、技術者、マネージャーなど約**2,000名**の専門家集団
- 毎年、一部入れ替わりあり



2. 調査方法と調査期間

■方法：Web質問紙調査

- 電子メールによる依頼
- 多重回答を防ぐため個別URLを設定

■期間：

- 2016年11月30日～12月14日
- 2018年10月19日～11月9日



3. 回答者の概要

2018年調査と2016年調査の対象者数と重なり（人）

	2016	2018	2016/2018
調査対象	1,983	2,195	947
有効回答	1,406	1,548	557
分析対象	1,398	1,516	551
回答率	70.5%	69.1%	58.2%

※分析対象は、現在論文出版や口頭発表を行っている研究者

3. 回答者の概要 (2018, n=1,516)

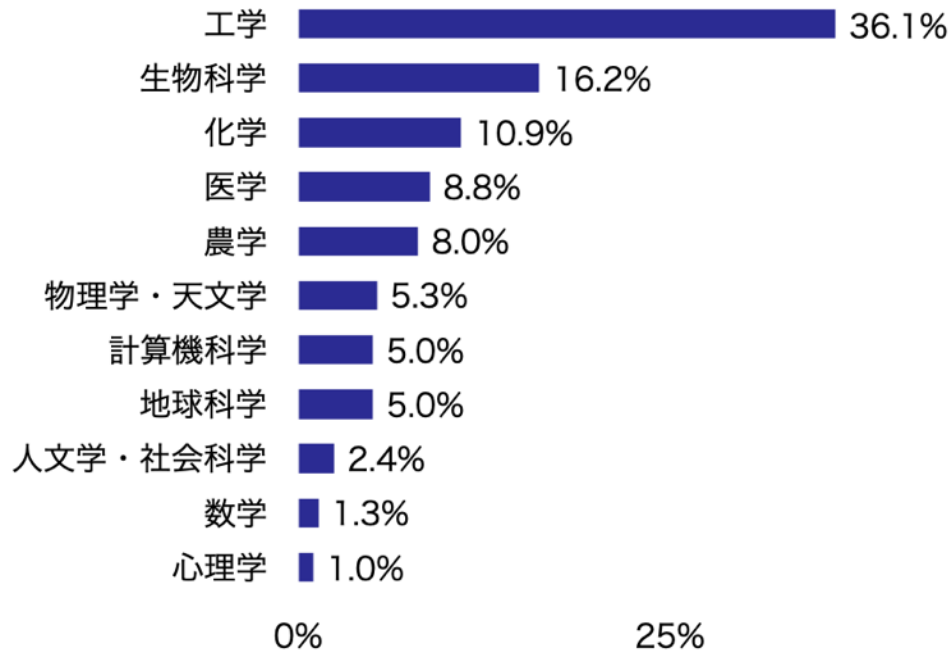
所属機関



年齢層

年代	回答者数	比率
20	13	0.9%
30	440	29.0%
40	753	49.7%
50	218	14.4%
60	84	5.5%
70	7	0.5%
不明	1	0.1%
合計	1,516	100.0%

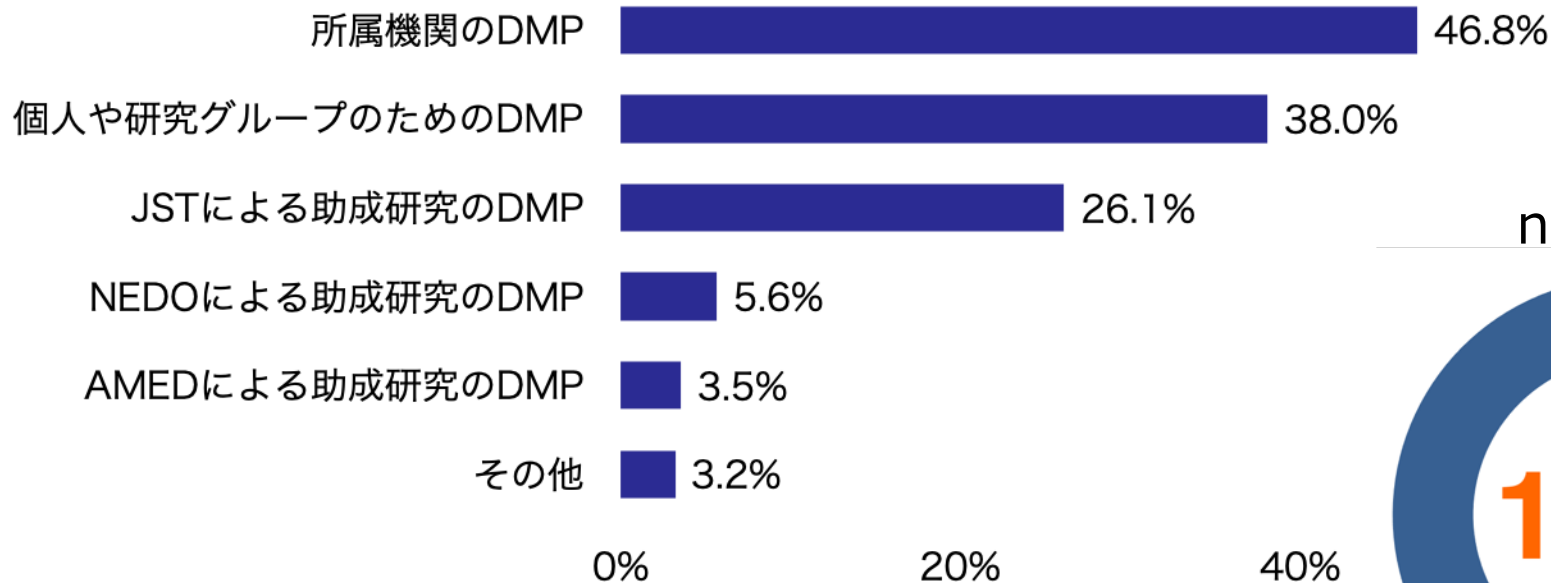
専門分野



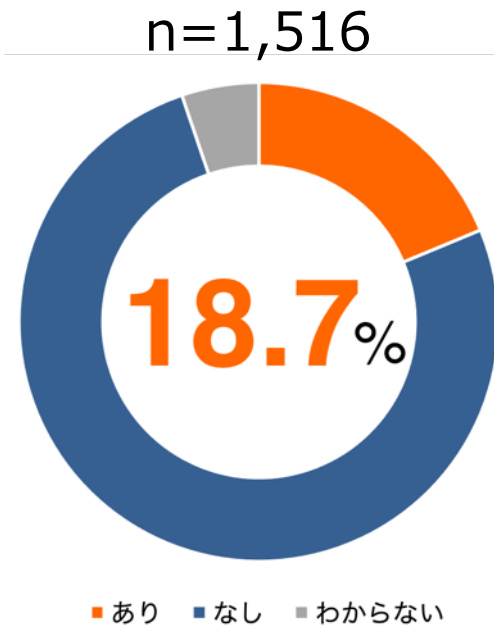
II. 日本の研究者によるRDMの実践状況

1. データマネジメントプラン（DMP）の作成状況
2. 研究データの個人的な共有状況
3. 公開データの入手状況
4. 研究データの公開状況

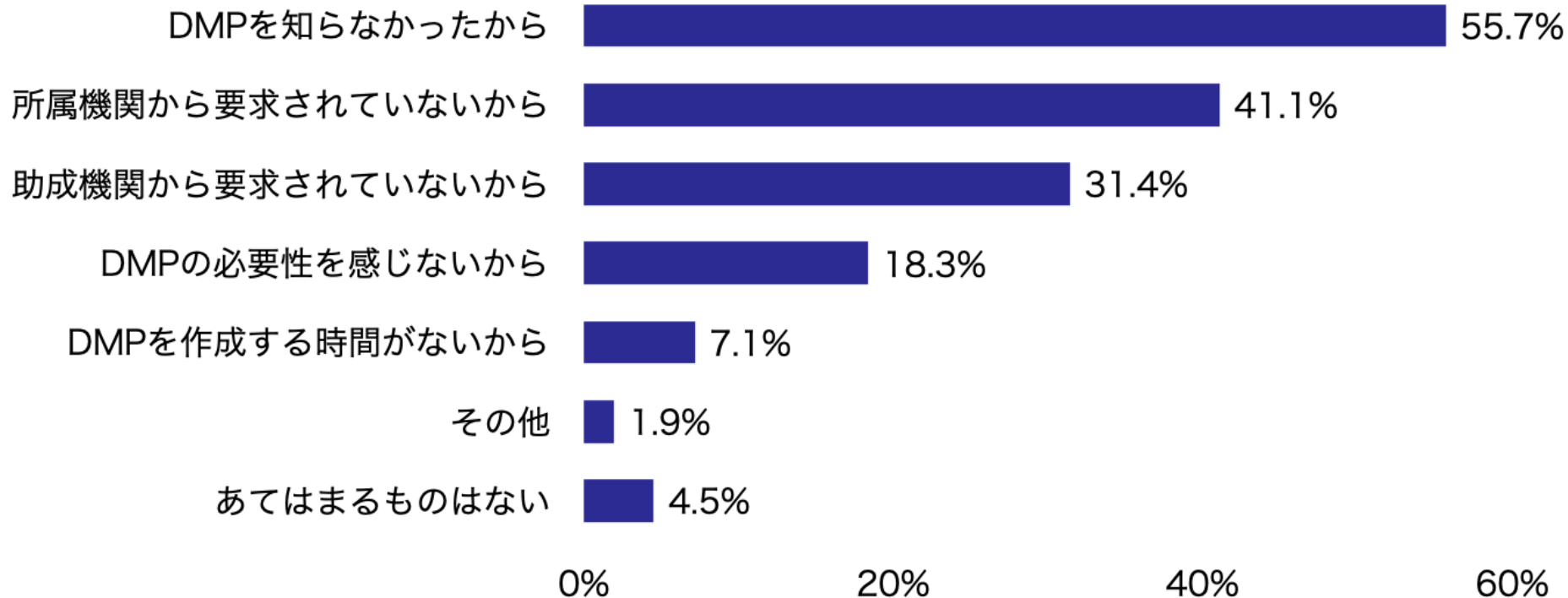
DMPの作成経験 (2018)



n=284 (複数回答)



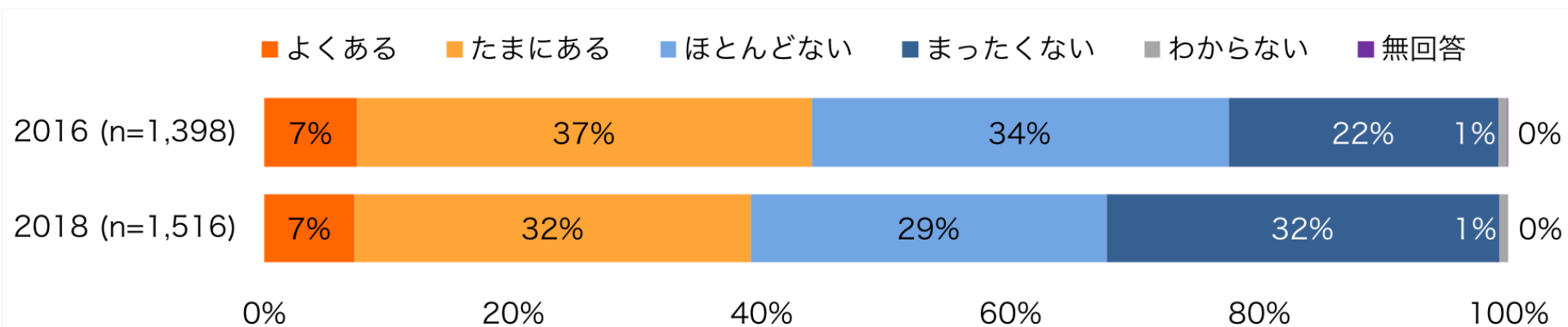
DMPを作成していない理由（2018）



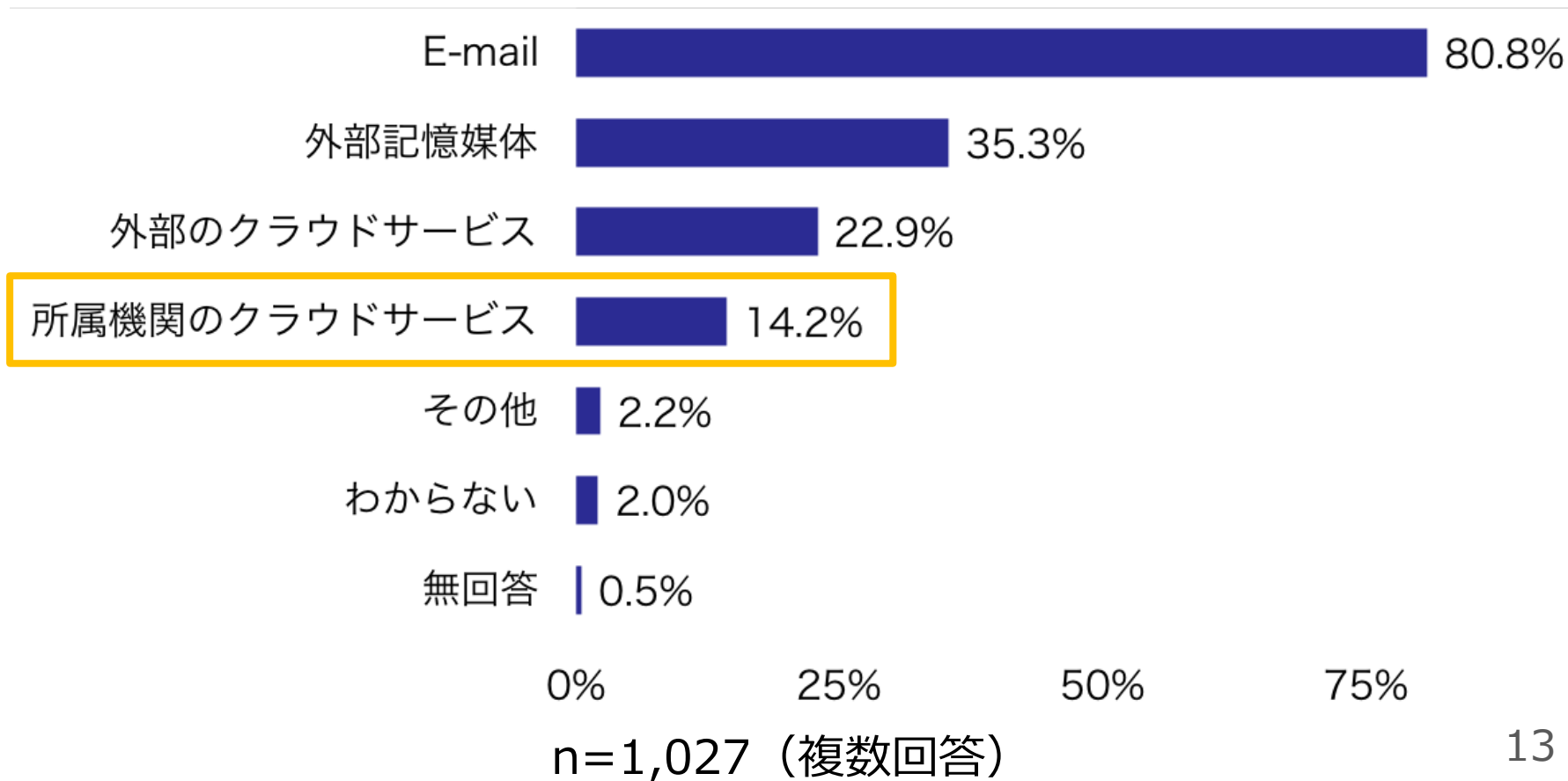
n=1,027 複数回答

研究データの共有経験（2016/2018）

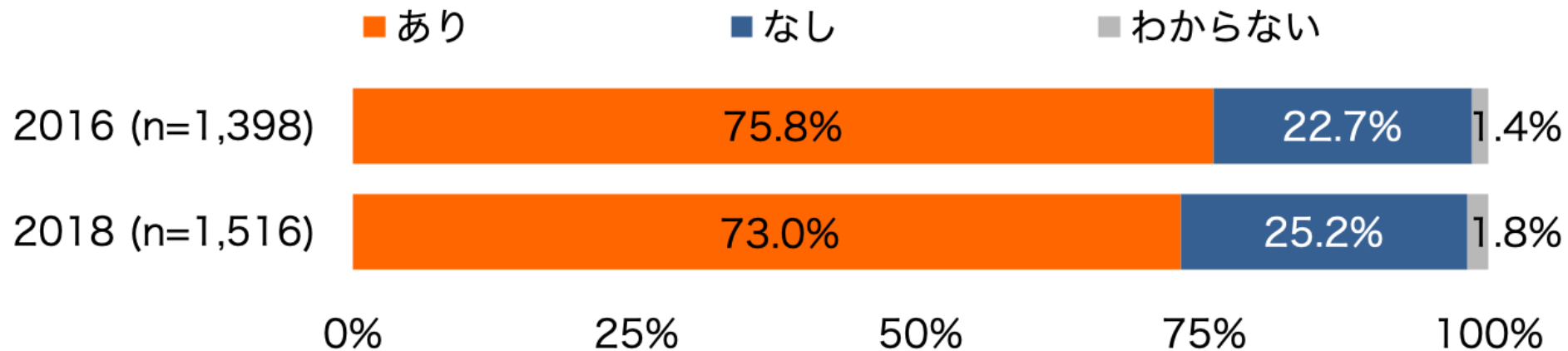
Q. 共同研究者を除く他の研究者に
研究データを提供したご経験はありますか？



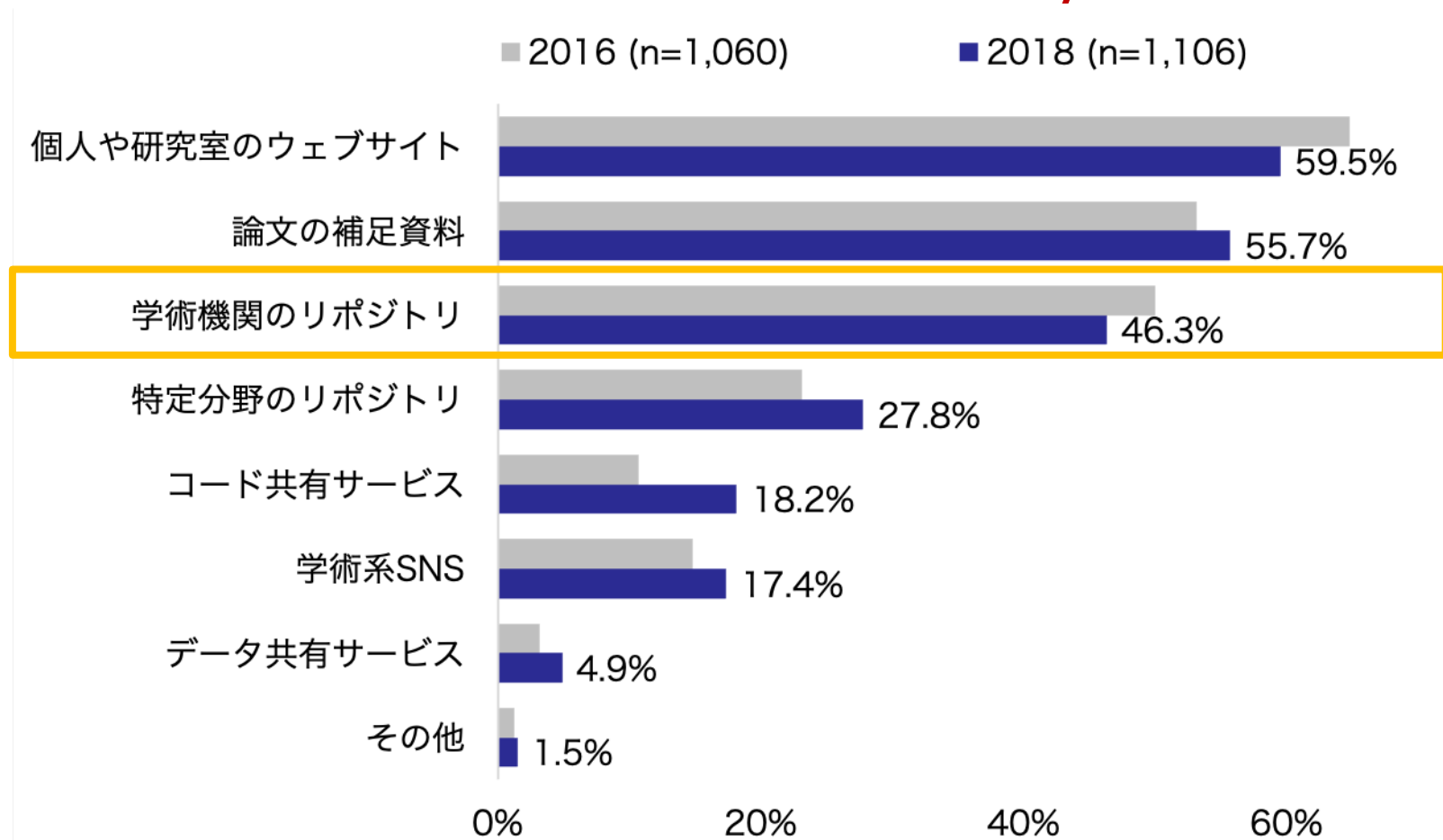
研究データの共有方法（2018）



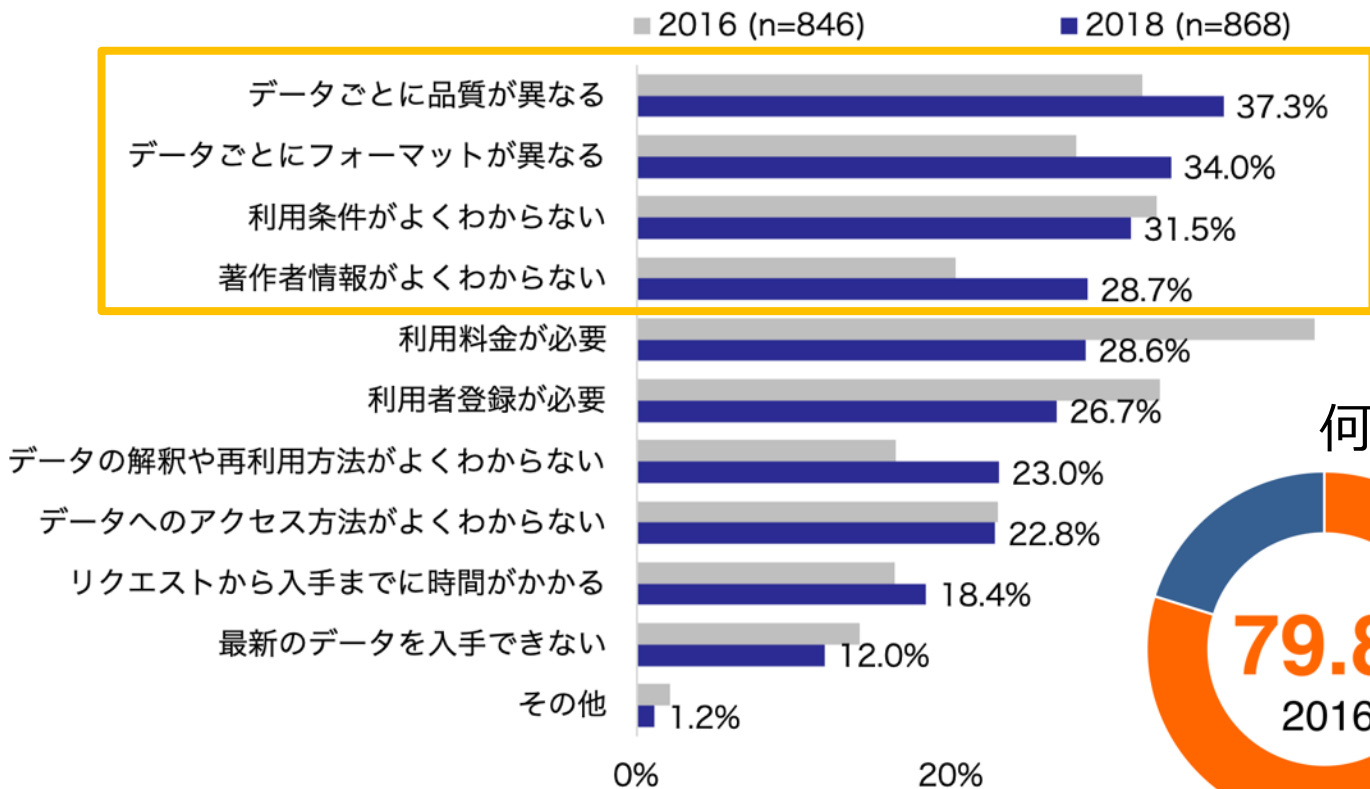
公開データの入手経験（2016/2018）



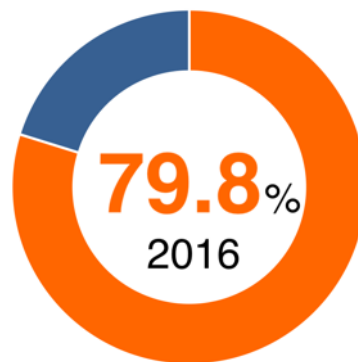
公開データの入手方法（2016/2018）



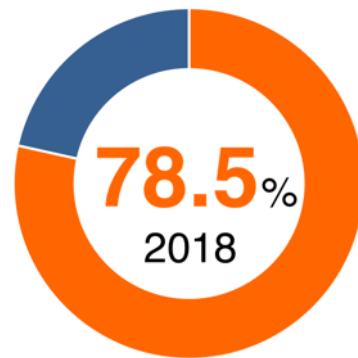
公開データを入手する際の障壁（2016/2018）



何らかの障壁あり



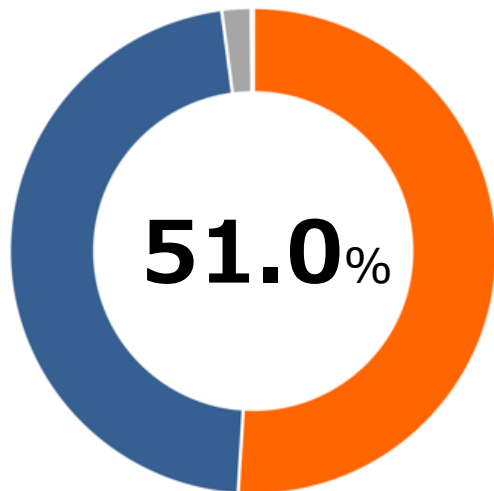
■ あり ■ なし



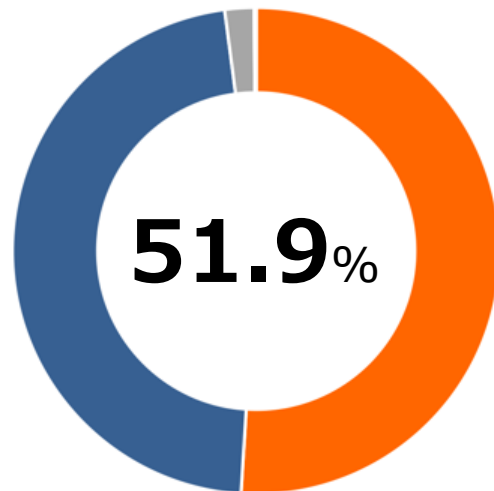
■ あり ■ なし

研究データの公開経験 (2016/2018)

2016 (n=1,398)



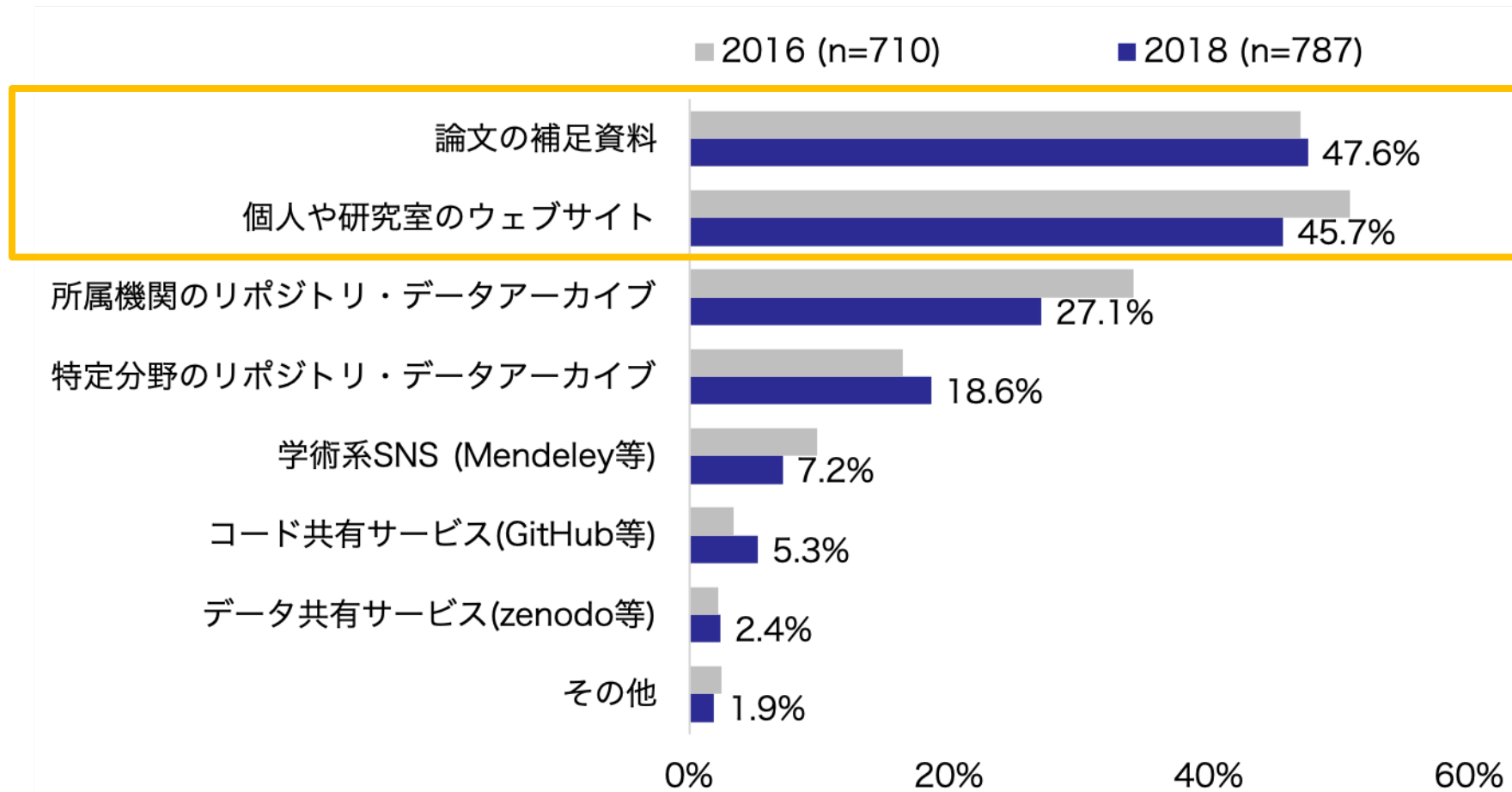
2018 (n=1,516)



■ あり ■ なし ■ わからない ■ データは用いない

参考：論文のオープンアクセス(OA)は**70.8%→78.0%** ($p<.001$)

研究データの公開方法（2016/2018）



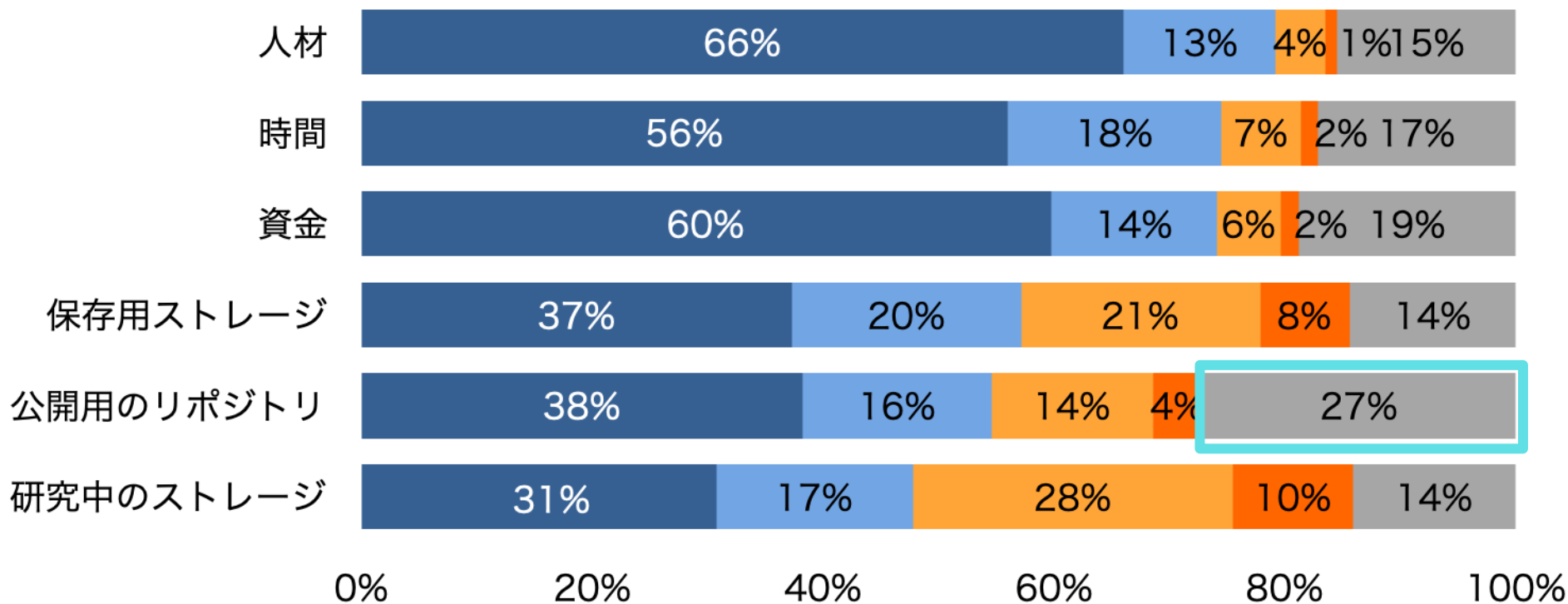
III. 日本の研究者によるRDMの認識と課題

1. RDMのための資源の充足状況
2. RDMのための知識
3. 第三者によるRDMの支援の可能性

RDMのための資源の充足状況（2016）

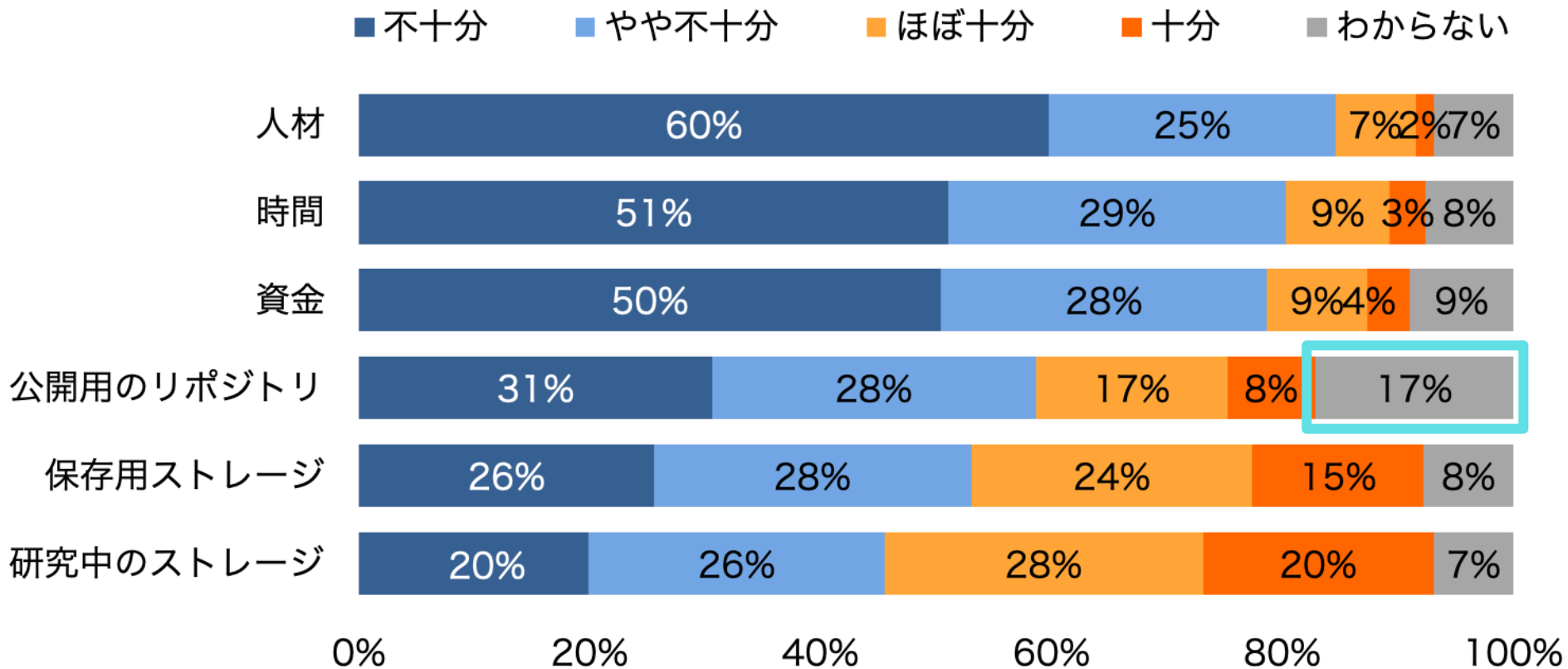
データを整備・公開しようとする場合、次の資源は十分に整っていますか？

■ 不十分 ■ やや不十分 ■ ほぼ十分 ■ 十分 ■ わからない



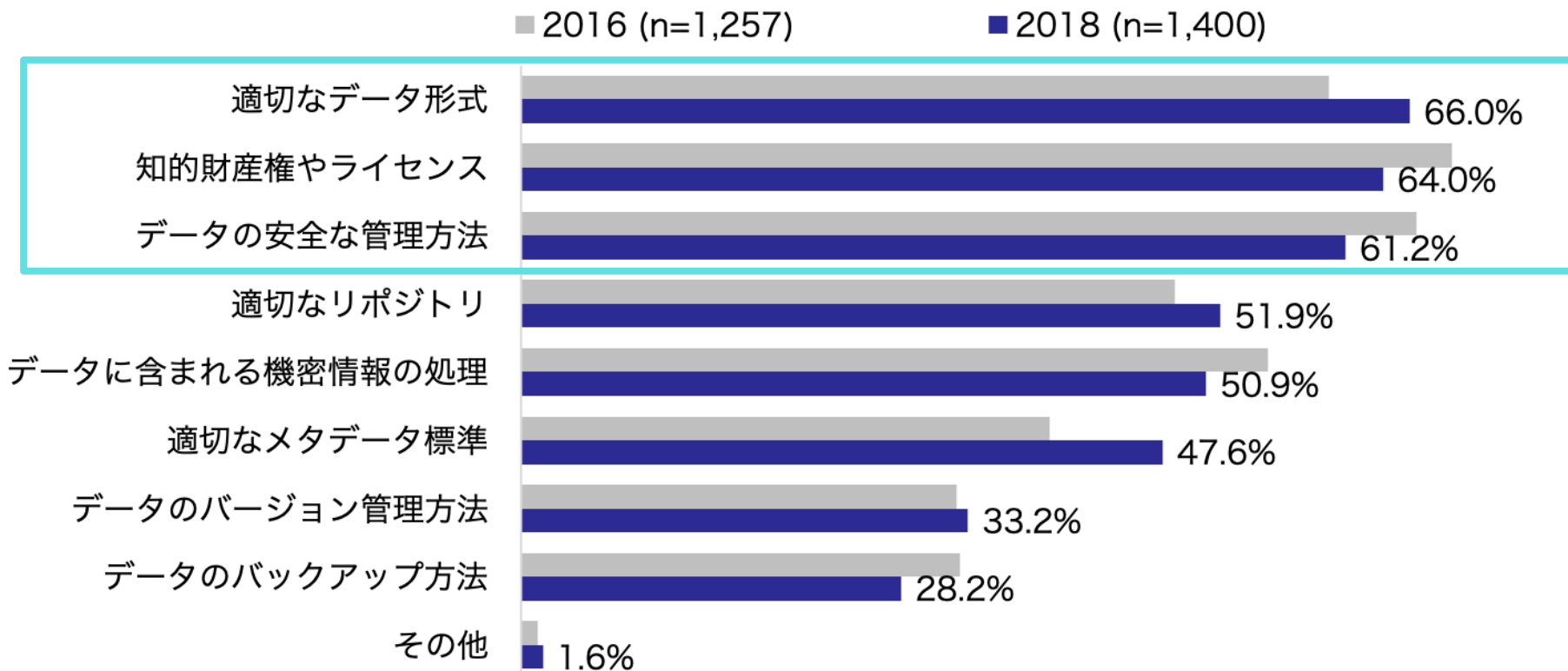
RDMのための資源の充足状況（2018）

データを整備・公開しようとする場合、次の資源は十分に整っていますか？



RDMのための知識（2016/2018）

データを整備・公開する上で、より詳しく知りたいと思われる項目をお選び下さい。
（複数回答）



Q. RDMの困難さ

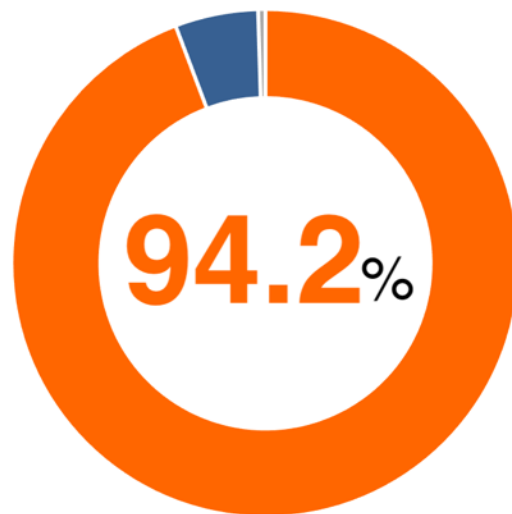
カレントデータの整備や公開を、ご自身や共同研究者にかわって図書館員やデータキュレーターなどの第三者が行う場合、分野の知識や専門性が必要であると考えられる項目をお選び下さい。カレントデータが多様な場合は、もっとも難しいと考えられるデータについてお答え下さい。

→知識や専門性が必要ではない項目 = 支援の可能性

※カレントデータ = 論文などの成果を発表済みの、
最近の主要な研究1件のために収集・作成・観測したデータ

RDMの困難さ (2018)

94.2%の回答者が研究データの整備や公開のためには
「分野の知識や専門性」が必要であると認識



■ あり ■ なし ■ 無回答

n=1,513

RDMの困難さ：第三者による支援の可能性

■ 2016 (n=1,302)

■ 2018 (n=1,426)

機関のリポジトリによるデータ公開

24.6%

データを異分野の研究者に紹介する

35.4%

メタデータの作成

38.0%

適切なリポジトリの選択

44.2%

適切なメタデータ標準の選択

54.2%

データを再利用しやすいように整える

60.2%

適切なデータ形式への変換

62.0%

その他

2.2%

0%

20%

40%

60%

25

IV. まとめ



まとめ：RDMの実践状況

- DMPの作成経験は18.7%、認知度も低い
- 研究データの共有経験は約7～8割、所属機関のクラウドサービスは14.2%
- 公開データの入手経験は約75%、学術機関のリポジトリが比較的利用されている
- 公開データの入手する際、約8割が問題を感じており、特にデータの品質やメタデータの不備は多数が問題視
- データ公開経験は約5割、使用されているのは論文の補足資料や個人・研究室のウェブサイト

まとめ：RDMに対する認識

- RDMのための人材、時間、資金はいずれも不足感が強い
- データ公開用のリポジトリ、保存用ストレージ、研究のストレージも半数以上が不足感
- RDMのためにより詳しく知りたい事項は、適切なデータ形式、知的財産権やライセンス、安全な管理方法
- RDMの支援の可能性がある（比較的専門性を必要としない）のは、機関リポジトリによるデータ公開、データの紹介、メタデータの作成

まとめ：RDMの実践状況と課題

■ DMP（データマネジメントプラン）

- 認知度向上、実践を推進

■ RDMのための基盤整備

- 支援人材：機関リポジトリ、メタデータ作成
- インフラ：管理・長期保存用ストレージ、公開用リポジトリ
- 教材：適切なデータ形式、ライセンス、安全な管理方法

■ 研究データ公開

- 再利用時の問題を低減：利用条件・メタデータの整備

